

恩徳寺詣と豎巖尊詣で-VII

沢田山恩徳寺と明善寺

『備前記』(1700年～1717年)の沢田村に、「西方院上ノ山ヲ、妙善寺ノ古城ト云、此城ニ毛利幕下、薬師寺弥五郎、中島大炊ト云者居城之時、沼ノ城主、宇喜多直家目黒村へ出張シテ攻ルト云、・・・」「毛利家ノ人数ノ、弓鉄砲ハ雨ニ濡テ用ニ不立ト云、」と記録しています。明禅寺は、操山から尾根続きの沢田の西にまたがる恩徳寺の上、標高120mの山上にありました。恩徳寺と関係の深い臨済宗寺院でしたが明禅寺合戦の前に廃されたようです。明禅寺は戦国時代の備前平野で最大の明禅寺合戦の舞台となりました。備前戦国史に名高い「明禅寺合戦」は、永禄10年(1567年)です。いわゆる、「明禅寺崩れ」により恩徳寺は壊滅的打撃を受けました。明禅寺合戦時の住職は増泉(～1559年)です。恩徳寺を再興したのは、増海(～1608年)・良海(～1626年)・清宥(～1627)です。清宥が恩徳寺中興大徳とされ、曹源寺へ移転した光明院・開基一世です。



沢田山恩徳寺と石高神社

石高神社(岡山市中区円山 853 番地)の祭神は、大己貴命と須勢理姫命です。配祀は仲哀天皇・神功皇后・応仁天皇です。石高神社の末社に「恩徳寺の豎巖宮と金祐稻荷」があります。恩徳寺と関係の深い神社です。石高神社には末社が 8 社あります。その中に恩徳寺の摂社、豎巖宮と金祐稻荷があります。



豎巖宮



金祐稻荷



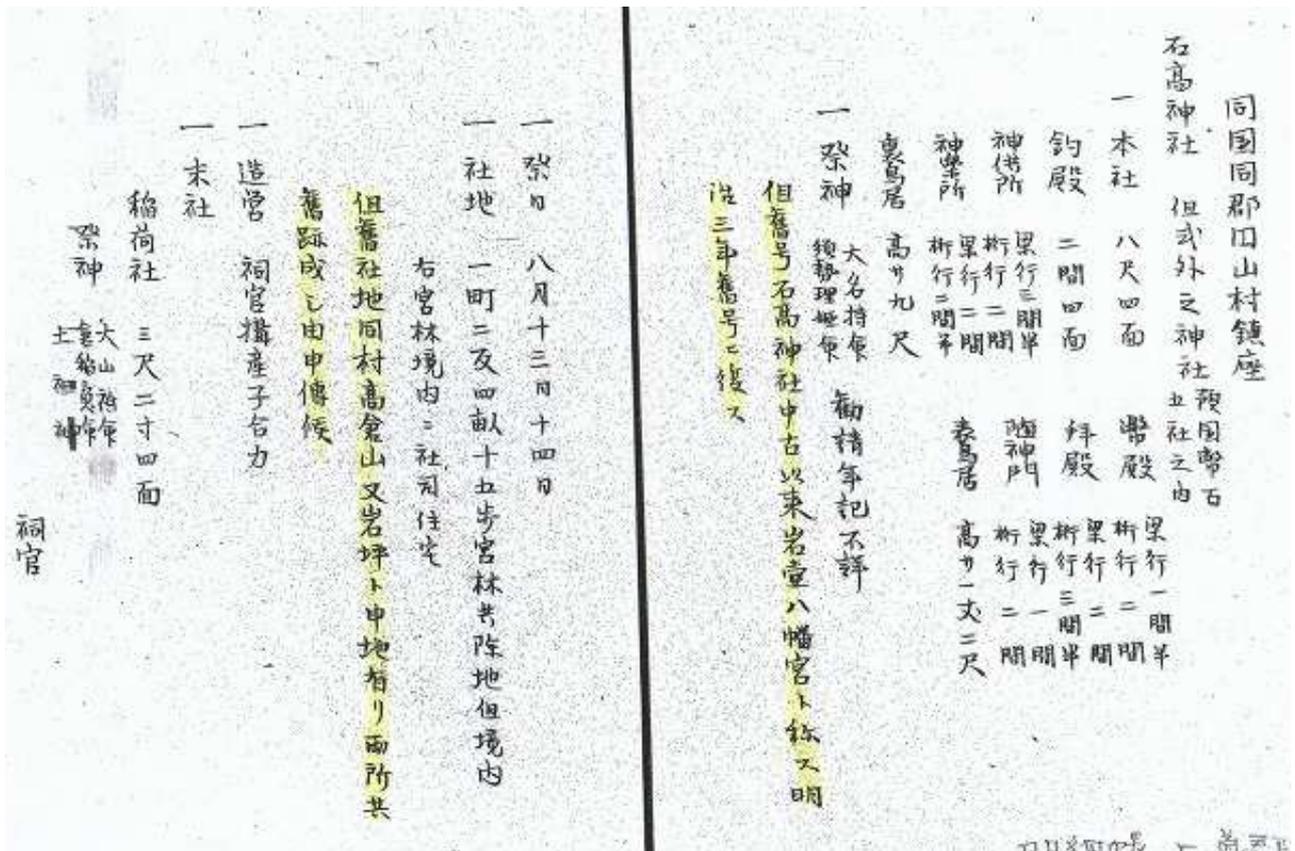
石高神社



平安時代の諸制度を編纂した延喜式(927年)の神名帳にはありません。式外社(しきげしゃ)となります。備前の式内、式外古社は百二十八社あり、この内の一社です。

明治3年の神社明細帳に「但奮社地同村高倉山、又岩坪と申地有り、両所共奮跡成し由も申傳候」「但奮号石高神社中古以来、岩坪八幡宮と称す明治3年奮号に復す」とあります。

高倉山(岩倉山・標高138m)の頂上に大己貴命・大名持命を祀る石高神社があり、今の嶽字岩坪に須勢理姫命を祀る岩坪八幡宮がありました。高倉山の中腹には石高神社の石段が現在も残っています。この両社を天和3年(1683年)頃に現在地に合祀し、岩坪八幡宮と称して尊敬していました。



明治3年 神社明細帳 上道郡七

現在地への移座理由は、岡山市史古代編によると、池田藩の政治的圧力によるものです。石高神社の北側に曹源禅寺 があります。池田藩の先祖を祭る寺院です。江戸時代に三重の塔を建てた際、石高神社が邪魔になり高倉山の磐座が見えなかったため、池田藩が石高神社を現在地に移転させたと言われてています。この事件は古代の磐座信仰が江戸時代迄、残っていた証拠です。

明治3年(1870年)に旧号の石高神社に復し、幡多郷の総鎮守産土神と定められ、大正3年(1914年)には村社になりました。

幡多郷というのは、『備陽記』(1721年)によれば、清水・赤田・藤原・高屋・関・沢田・山崎・円山・湊の各村をさしており、古代から栄えていた操山山系の北側や新たに開発された南側の人々の生活や湊方面を航行する船の安全を護って来ました。

http://www.geocities.jp/ki_warabi/index.htm